

令和元年6月18日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02604

研究課題名(和文) 朝鮮戦争期の韓国、在日朝鮮人社会、沖縄の文学者の動向についての比較研究

研究課題名(英文) Comparative study about the author's trend of Korea, the Korean resident in Japan society and Okinawa in the Korean War period

研究代表者

呉世宗(OH, Sejong)

琉球大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：90588237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、韓国、在日朝鮮人、そして沖縄に関する文学研究においてほぼ「空白」となっている朝鮮戦争期に着目し、三つの地域・社会の文学者が、その時期にいかなる行動を取り、またいかなる作品を残したのかを比較検討するものである。

2016年度は韓国の文学者に関する研究を行った。2017年度は沖縄の文学者に関する研究を行った。2018年度は在日朝鮮人文学者の研究を行った。基礎資料の調査収集から始め、集めた資料を基にそれぞれの文学者たちが、植民地的/脱植民地的/冷戦体制的価値の相克からいかなる影響を被り、そしていかなる文学的言説を生み出したのかを考察した。研究成果は学会等で発表し、論文と書籍にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の朝鮮戦争についての文学的観点からの研究は断片的にあるものの、ほぼ研究されていない状態に留まっていた。さらに韓国、在日朝鮮人社会、沖縄の三地域の文学者の動向から朝鮮戦争にアプローチする研究はほとんどなく、また文化的観点から植民地的/脱植民地的/冷戦的価値観の相克の考察は十分になされてこなかった。この点、歴史的視点も加えて朝鮮戦争を文学的観点から考察する本研究は、新たな角度から朝鮮戦争を検討する営みにおいて、既存の研究にはない独自性を持つ。本研究によって、朝鮮戦争研究の枠組みそのものを根本的に問い返し、また韓国と沖縄の文学研究、そして在日朝鮮人文学研究に新しい視点をもたらした。

研究成果の概要(英文)： This research aimed in the Korean War period which is the time which becomes "blank" in literally study about Korea, a Korean resident in Japan and Okinawa (1950-53). And it's compared and examined what kind of behavior did an author in three of area and society get the time also what kind of work was left.

I stayed at Yonsei University for one year and studied about a Korean author in year 2016. In year 2017, I studied about an Okinawan author. In year 2018, I studied an author of a Korean resident in Japan. In which year was it also begun from investigation collection of basic material. I examined how writers in each region were affected by the conflict of colonial values / anti-colonial values / cold war values. And I considered what kind of literary discourse they invented based on the material they were gathered. Study results were reported for an academic meeting and it was published as a thesis and a book.

研究分野：在日朝鮮人文学

キーワード：在日朝鮮人文学 朝鮮戦争 沖縄文学 韓国文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本と韓国は共に 1990 年代以降にポストコロニアル文学理論を受容しているが、“post-colonial”を日本であればカタカナで、韓国であれば「脱植民地主義」に翻訳するという点に象徴的に見られるように、受容後の研究の進展に大きな相違が生じている。これまでその相違を比較検討するため、支配/被支配、協力/抵抗といった二項対立的認識枠組みを両国がいかに問い直しているのか、そしてそれが在日朝鮮人文学を対象にして両国でどのように適用されているのかを考察してきた。しかしポストコロニアル文学理論の受容を準備し、また研究の展開様相の差異をもたらした歴史的背景を検討するには至っていない。そこで本研究は、植民地的認識枠組み、脱植民地化の志向、そして冷戦的価値がせめぎ合った時期である朝鮮戦争期に着目し、その時期の韓国、在日朝鮮人社会、そして沖縄を加えた三つの地域・社会の文学者の動向を検討することで、戦争がいかに価値体系や認識枠組みを変容させたのかを明らかにする。

朝鮮戦争は、朝鮮半島を国家体制的にもイデオロギー的にも分断し、南北を冷戦構造に組み込んでいく時期である。その過程で、残存していた支配/被支配、抵抗/協力といった植民地的認識枠組みに、社会主義/資本主義、自由主義/共産主義といった冷戦的対立認識枠組みが重ねられていく。その結果、誰が「支配」者で「被支配」者なのか、「民族主義」を代表するのは南北のいずれかといった価値の混乱や相対化が朝鮮半島では起きている。また朝鮮戦争は、在日朝鮮人社会にも分断を持ち込み、後の朝鮮総連と民団という二つの組織の形成に見られるように、コミュニティ内での軋轢をもたらした。在日朝鮮人社会でも、「抵抗」「協力」「民族主義」などが友/敵という冷戦的価値観のなかで意味が充填され流通したのである。もう一方で朝鮮戦争期の沖縄では、また別の認識枠組みが働いた。朝鮮戦争期の沖縄は、60年代の復帰運動の準備期であり、また米軍による土地の強制接収に対する「島ぐるみ闘争」の機運が生まれつつあった時期にあたる。「異民族」=米国によって「支配」されている沖縄は、祖国=日本へ帰るといふ民族主義的抵抗運動、復帰運動のなかにあったのである。その意味で沖縄では、支配/被支配、抵抗/協力や、民族主義といった概念が、朝鮮半島および在日朝鮮人社会とは異なるものとして用いられた。

そのようななか、各地域の文学者たちは、価値や認識のそのせめぎ合いに関わりあっていった。韓国では、孫昌渉や李範宣のように作品を残した文学者もいれば、李光洙のように植民地時代に親日派だったために処罰された文学者もいた。また林和、李箕永のように北朝鮮へ渡っていった文学者も存在する。作品を書くことで、あるいはそれ以外の行動で政治的立場が問われ、また表明していった。沖縄では、厳しい検閲を含む米軍政占領政策と交渉しつつ大城立裕、霜多正次、嘉陽安男、牧港篤三らが文学活動を開始し、また新川明や川満信一などの若い書き手が『琉大文学』を舞台に作品の発表を行った。その結果、朝鮮戦争を扱う作品は少ないものの、直接的間接的に戦争に触れながら、米軍や沖縄の現状を表現し、反戦を訴える作品が残された。また在日朝鮮人社会では、金達寿、許南麒、呉林俊、張斗植といった文学者が、在日朝鮮人の組織である在日朝鮮統一民主戦線(民戦、1951-55)に所属しながら、作品や評論を通じて朝鮮戦争の現状を伝え、そして反戦を訴えていった。そのように朝鮮戦争期は、植民地的認識枠組み、脱植民地化の試み、そして冷戦的認識枠組みがせめぎあうなか、韓国と在日朝鮮人、そして沖縄の文学者が、支配/被支配、民族、抵抗、あるいは祖国観などに関する独自の表現を産出していったのである。

朝鮮戦争期の韓国、在日朝鮮人社会、沖縄に関する文学的観点からの研究は、総じて空白と言ってよい状況にある。韓国では朝鮮戦争期に関する文学研究が極めて少ない。戦争期に発刊されていた雑誌を論じた朴信憲(1992)、新聞小説を扱った徐光云(1993)、戦争詩を取り上げたイム・ドハン(1994)等があるが、作品や雑誌、そして評論などの収集・整備のレベルで不十分な状況に留まっている。朝鮮戦争期の在日朝鮮人文学に関する先行研究としては、宋恵媛(2014,2014)が日本敗戦直後からの通史的研究を発表し、また女性の書き手による作品集を出版するなど研究の端緒を開いた。しかしこの時期の在日朝鮮人文学に関しては、朝鮮人組織である民戦との関係において研究する必要があるが、民戦に関しては坪井豊吉(1959)李瑜煥(1980)や朴慶植(1989)などの研究があるのみである。朝鮮戦争期の沖縄に関しては、新崎盛暉他(1976)、森宣雄(2010)、若林千代(2007)など政治・歴史・思想的な観点からの研究は増えている。だが文学的観点からの研究は、新城郁夫(2003)があるものの資料整備など基礎研究レベルで不十分な状況となっている。

2. 研究の目的

本研究は、韓国、在日朝鮮人、そして沖縄に関する文学研究においてほぼ「空白」となっている朝鮮戦争期(1950-53)に着目し、三つの地域・社会の文学者が、その時期にいかなる行動を取り、またいかなる作品を残したのかを比較検討するものである。朝鮮戦争期はいずれの地域・社会においても植民地的認識枠組み、脱植民地化の試み、そして冷戦的認識枠組みが重なり合いつつ、しかしせめぎあう時期にあたるが、韓国、在日朝鮮人、沖縄の文学者たちが作品や評論、あるいは現実的な行動によって、そのようなせめぎ合いや重なり合いにどのように関与し、そこからいかなる独自の文学的表現を生んだかを比較検討する。そのような比較検討を通じて、朝鮮戦争を文学研究の側面から新たに捉え返す

こともまた目的とした。

3. 研究の方法

研究計画・方法としては、韓国、沖縄、在日朝鮮人の文学者についての考察を年度ごとに振り分けて行った。平成28年度は韓国・延世大に一年間滞在し、韓国の文学者に関する研究を行った。平成29年度は沖縄の文学者に関する研究を行った。平成30年度は在日朝鮮人文学者の研究を行った。いずれの年度においても、まず基礎資料の調査収集から始めた。韓国の動向に関しては『文芸』『文化世界』『新天地』など、沖縄の動向に関しては『沖縄タイムス』『琉球新報』『うるま春秋』『琉大文学』など、在日朝鮮人社会の動向に関しては『新朝鮮』『青銅』『北極星』『解放新聞』など、各地域・社会で刊行された新聞雑誌や作品、および二次資料を含めた文学関連及び思想史関連の基礎資料の調査収集を進めた。次に収集した資料をもとに、それぞれの地域の文学者たちが、朝鮮戦争期の植民地的／脱植民地的／冷戦体制的価値のせめぎ合いからいかなる影響を被り、そして認識枠組みや価値体系を巡っていかなる文学的言説を生み出したのかを考察した。

4. 研究成果

(1)(a)朝鮮戦争期に韓国で出版された『文芸』『文化世界』『ソウル新聞』など雑誌・新聞・作品集の幅広い収集・整理を行った。(b)朝鮮戦争期の韓国では作品を残した者、植民地期の親日行為で処罰された者、また北朝鮮へ渡っていった者などがいるが、それら文学者たちの動向を自伝、先行研究、関連資料をもとに整理した。(c)以上を踏まえ、ポストコロナルな状況における戦争という中で、植民地的／脱植民地的／冷戦体制的価値が文学者たちの主体意識の中でいかなる葛藤を引き起こし、また作品・評論・行動を通じていかなる価値が作り上げられたかを考察した。

(2)沖縄に関しては、(a)『沖縄タイムス』『琉球新報』といった新聞資料、『琉大文学』『月刊タイムス』『沖縄ヘラルド』『沖縄思潮』といった雑誌、文学作品、そしてUSCARの資料を幅広く収集・整理した。(b)戦後初期から活動している文学者、また『琉大文学』で登場する文学者などに関する文献資料を調査収集し整理した。(c)米軍の統治下にあった沖縄では、朝鮮戦争の時期に土地闘争や初期の復帰運動、そして米軍基地から爆撃機が飛び立っていることから戦争反対運動が起きているが、そのような中で文学者たちがいかに脱植民地的／冷戦的価値の相克に関わっていったのかを収集した資料をもとに考察した。

(3)在日朝鮮人社会に関しては、(a)『民主朝鮮』『新朝鮮』『解放新聞』『カリオン』といった雑誌新聞や金達寿、呉林俊などの文学者の作品を収集する。(b)プロレタリア国際主義的な立場から反戦平和運動を展開した朝鮮人組織・民戦に関する資料を収集した。また民戦を指導した日本共産党の対在日朝鮮人方針についての資料も収集・整理した。(c)集めた資料をもとに、植民地的／脱植民地的／冷戦体制的価値の葛藤のなか、在日朝鮮人の文学者が日本という地でいかなる反戦平和運動を展開したのか、それが韓国の動向とどれほど重なりまた異なるのかを考察した。

研究成果は学会等での発表し、論文、書籍として公刊した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

呉世宗、玄月「蔭の棲みか」についての一試論：桐野夏生『ポリティコン』と比較して、琉球アジア文化論集：琉球大学法文学部紀要、査読なし、5号、2019年、3-15

呉世宗、金嬉老と富村順一の日本語を通じた抵抗、琉球アジア文化論集：琉球大学法文学部紀要、査読なし、4号、2018年、55-57

呉世宗「私のソウル」、『けーし風』、査読なし、94巻、2017年、66-69

〔学会発表〕(計 11 件)

呉世宗、又吉栄喜「豚の報い」における月について、又吉栄喜『豚の報い』翻訳記念ワークショップ、琉球大学、2019-2-12

呉世宗、在日朝鮮人文学とその歴史的背景、東西大学人文学リーダーシップ特講(韓国・釜山) 2018-11-14

呉世宗、崎山多美の他者の触れ方、日本社会文学会2018年度秋季大会、沖縄国際大学、2018-11-10

呉世宗、在日朝鮮人文学における動物について、東アジアの植民主義と文学研究会 第五回研究大会、沖縄船員会館(沖縄) 2018-9-20

呉世宗、在日朝鮮人文学の文学的抵抗について、全国文学者大会、ハンファ・リゾート・チエジュ(韓国・済州島) 2018-4-27

OH, Sejong The Jeju Massacre in the Korean war and the origin of literature of Kim Sok-pom,

AAS、Sheraton Hotel (Toronto, Canada) 2017-03-18

吳世宗、朝鮮戦争の中の金石範文学、韓民族文化学会、高麗大学(韓国・ソウル市) 2016-12-10

吳世宗、沖縄戦から朝鮮戦争にいたる沖縄の朝鮮人の状況、済州大学定期招聘講演会、済州大学(韓国・済州市) 2016-11-14

吳世宗、金時鐘の詩を読む、スユノモ N 月例研究会、スユノモ N(韓国・ソウル市) 2016-11-08

吳世宗、朝鮮戦争期に韓国の文学者についての一考察 ファン・スンウォンを中心に、円光大学東アジア文化研究所定例研究会、円光大学(韓国・益山市) 2016-10-10

吳世宗、朝鮮戦争期に韓国の文学者についての一考察 ヨン・サンソプを中心に、ソウル大学統一平和研究院定例研究会、ソウル大学(韓国・ソウル市) 2016-08-31

〔図書〕(計 1 件)

吳世宗、沖縄と朝鮮のはざままで、明石書店、2019、363

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。